

全難言協夏期全国研修会「はじめのいっぽ2020」

構音指導Ⅱ

～側音化構音と口蓋化構音の指導法～

文京区立金富小学校 内藤かのこ

構音障害とは・・・

音を正しく獲得する発達の途上にある児童が、正常な構音をまだ習得していない、もしくは誤って学習した結果、正しい発音をすることができない状態

●異常構音（特異な構音操作の誤り）

発音の仕方を誤って学習した結果、口や舌に不自然な力が入り、正しく発音できない状態

①障害の分類

- 器質性構音障害 ※口蓋裂 鼻咽腔閉鎖機能不全
異常構音として相談にくる場合も。まず医療機関と連携を。
- 機能的構音障害 発達途上の誤り音(未熟音)
特異な構音操作の誤り音(異常構音)

②誤り方の分類

- 歪み音 日本語の音で表記できない あいまいな音
 - 弱音化(構音操作が不十分) ○鼻音化(鼻から息が抜ける)
 - 異常構音
(舌の不自然な力により日本語とは異なる構音操作となる)

構音指導 I スライド8 参照

きこえとことば研究テキスト p90~100 参照

構音障害の種類

③異常構音の種類

➤ 声門破裂音

➤ 咽(喉)頭摩擦音 / 咽(喉)頭破裂音

➤ 鼻咽腔構音

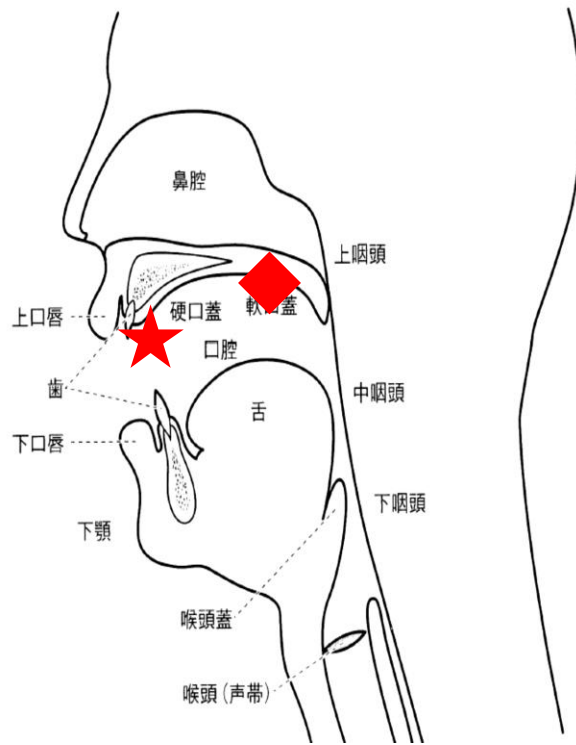
➤ 口蓋化構音

➤ 側音化構音

ことばときこえの教室で出会う頻度が高い。自分の耳を育て、気づくようになることが大事。

【参考資料】インテルナ出版
「口蓋裂の構音障害」(CD)
日本音声言語医学会 監修

○口蓋化構音



不自然な力が入りやすく、
舌を口腔外にだすと
イモ舌になる特徴がある。

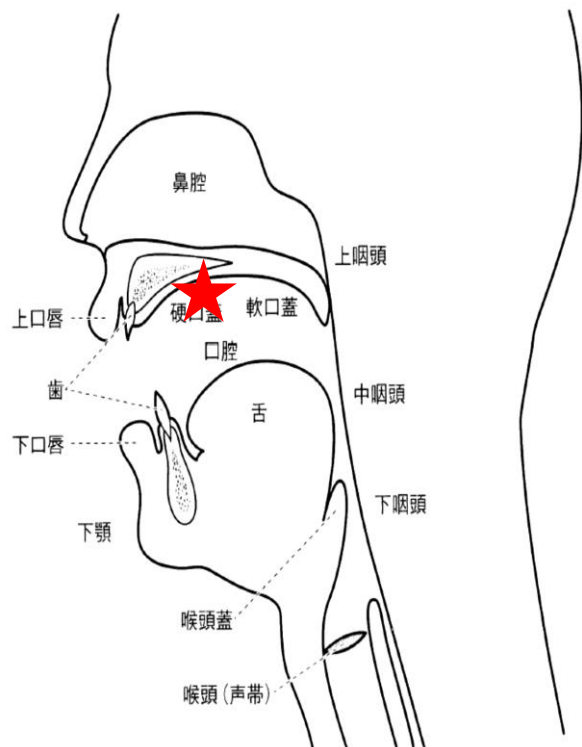
本来、**舌尖と歯や歯茎**で作られる音の構音位置(★)が、
後方に移動して(◆)、**舌背と口蓋**で作られるために生じる
歪み音。

音としては、「カ・ガ行音・ヒヤ行音」に近い音で発音される。

誤りやすい音

サ・ザ行音 タ・ダ行音
ナ行音 ラ行音

○側音化構音



構音時に舌が片側に寄り、口蓋に接するため(★)、音声や呼気が口腔の中央から出ずに、側方から出る歪み音。

誤りやすい音

イ列音 拗音

エ列音 サ・ザ行音・ツ音

舌が寄る際、下顎や口唇が横にひかれる様子が観察できる。

指導上の留意点

① 道具の活用

- ・音だけで正誤音の区別をつけることが難しい。
- ・鼻息鏡(写真)、鏡でのフィードバック
- ・ペンライトで口腔内視診(舌の形、状態を確かめる)

鼻息鏡やペンライトは、正しい舌の状態や息の流れができたかなど、確かめ程度に使用する。

児童の実態に応じて、正しい状態の確かめをどのように行っていくかは、工夫が必要。

鼻息鏡



息の流れを見ることが
できる鏡。正中から出
ているときは、まっす
ぐ息が流れる。

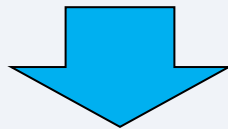
側音化構音の場合、
舌が側方に偏るため、
偏った側と反対の、な
なめ方向に、息が流
れる様子が見られる。

指導上の留意点

② 即時フィードバックの大切さ

- ・誤り音の自覚がない児童も多い。
- ・正しい音は褒めて強化、誤っている音はその場で指摘。

誤りを指摘されることが苦手な児童への指導、
指導者自身が誤り音をとらえるのに自信がない場面



正しく言えている音を評価し、強化することを意識して
フィードバックを行う方法もある。

指導上の留意点

③練習のモチベーション

- ・練習は一進一退。

同じことを繰り返し練習することもある。

- ・誤り音の自覚が薄いため練習に対しての目標が曖昧になることも。

教材を工夫。
楽しい学習で意欲を
高める。

発音の誤り方、なぜ
練習が必要なのか
を事前に説明する。

- ・発達の課題がある児童も少なくない。

指導上の留意点

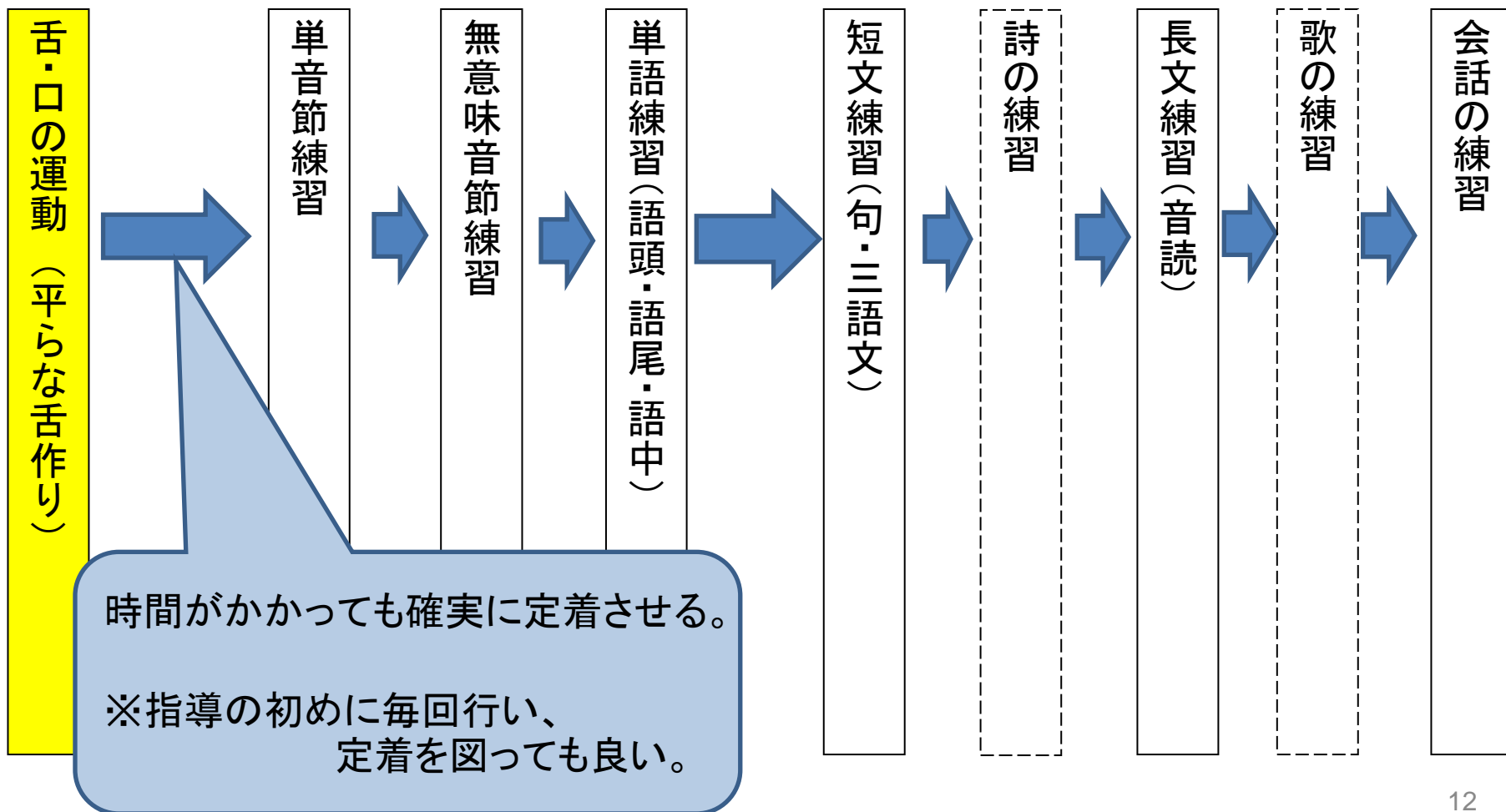
④家庭との連携

- ・舌の運動は、日々の積み重ねで少しずつ力をつけていく。
 - 1週間に1回、一時間の練習より、毎日5分程度の練習が効果的なことも。
- ・指導でとりくんだことを保護者へフィードバックする。
- ・確実にできるようになったことを家庭学習にする。

指導順序

構音指導 I
スライド13 参照

～系統的な構音訓練



基本の舌（ベロ）作り

側音化構音は、
舌が左右のどちら
かに寄る癖がある。

口蓋化構音は、
舌背が盛り上がる
癖がある。


つまり
不自然な力が入っている状態



舌の不自然な力を取り除いて
脱力した平らな舌を作れるようにする


基本の舌（ベロ）作り

- ①体全体、口元や喉のあたりの力を抜く。
- ②舌を下口唇に乗せる形で前方に出す。
- ③舌の力を意識的に抜き、両口角につくように開いた状態を作らせる。



Q なぜ舌を前方に出すの？

A 舌の力を抜きやすくするため
構音点を前にもってくるため





ふんわりとした厚みのある舌で、
両口角まで広がっていること

口蓋化構音の場合、舌尖だけではなく
奥舌もしっかりと力が抜けて平らになっ
ていること

こんな時は注意！

阿部雅子：構音障害の臨床

—基礎知識と実践マニュアル— P62,63,74参照

奥舌が拳上している舌

棒状の舌

波打っている舌



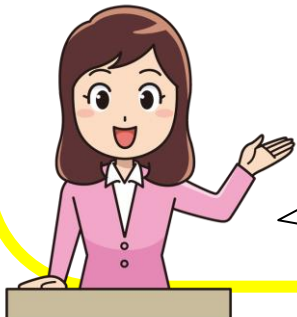
全て
十分な脱力が
できていない状態

基本の舌(ベロ)作り

- 舌を少し前に出す。
- 口角を軽くとんとんと触り、「柔らかく。」と教示。
- 見本の舌を示す、自身の舌の状態を鏡で見せる。
- 力を抜きやすい状態を探る。
(眠そうにやってみる。あくびをするつもりで。)

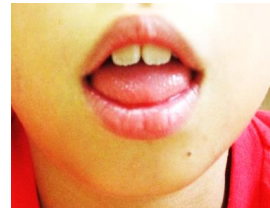
★舌ができてきたら、お子さんと名称をつける
「ホットケーキの舌」「ポケーのベロ」「ベロ平ら」

意識づけ



ポケーのベロで
風を出すよ。

スー



ポケーの
ベロ…
これか！

基本の舌（ベロ）作り

○少しずつ平らな舌を作ることに

慣れてきたら・・・



構えと維持の力を身に付ける

構え

「ポケーのベロ」と言った時、即座にその舌の状態を作ることができる。

維持

一定時間、その舌の状態を保持し、制止することができる。

舌先を意識させた舌の運動

○舌先を使わず発音する癖がついたベロ

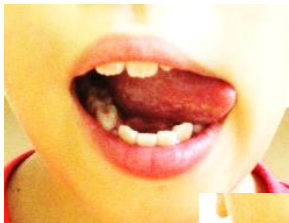
→ 芋舌 三角舌



舌先を使う音
/s,dz,t,ts,n,r/

○舌先を使う、舌先を意識的に動かす運動

舌の体操・・・ウォーミングアップとして取り入れる

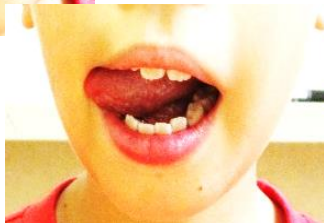


右



吸い上げ

左



上



※指示されたとおりに動かす。
※舌先に意識を向ける。

側音化構音・口蓋化構音は 舌の問題が大きい

舌の状態は常に確認
指導の始めに舌の状態をたしかめる

- 舌は脱力できてるか？
- 舌先の動きは？
- 左右差がないか？
- 舌先が正中にあるか？



音だけじゃなく
舌をよく見て
たしかめよう。

舌を出して
練習する意味

舌が安定しない時は
無理に進めない

聴覚弁別練習

○口蓋化構音の場合、誤り音は「カ行音・ガ行音」に近く聞こえることが多い。

○側音化構音の場合は「シ」と「ヒ」、「チ」と「キ」、「ジ」と「ギ」の音が混同しやすい。

but

実際は歪み音のため、児童が自身の誤り音に気付きにくい場合も多い。

正音と誤り音を聞きわける力を高める

発音を自己フィードバックする力を高める

(3) 聴覚弁別練習

①指導者の発音を聞いて弁別する練習

○誤り音に近い音との弁別ができるか

○歪み音と正音の違いが弁別できるか

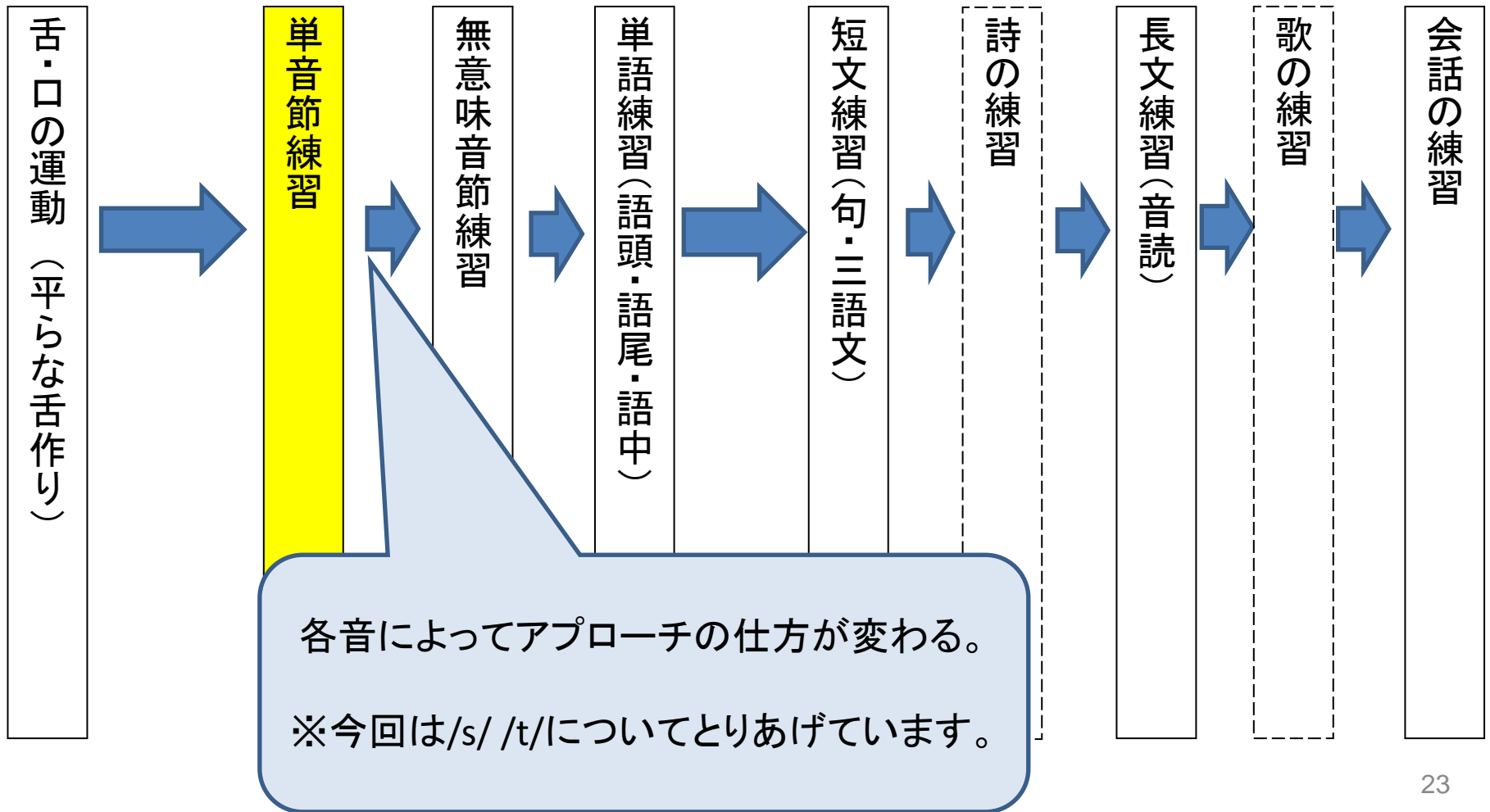
(指導者が口蓋化模放ができれば練習に取り入れてみる)

②児童自身が発音した音をフィードバックし、 弁別する練習(単音節・単語)

○担当者が即時評価して誤り音への意識を高める。

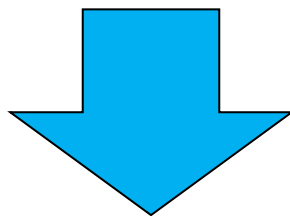
○「聞き分け練習」として児童自身に評価させる。

指導順序



(3) 音作りのステップ

基本の舌作り
脱力した平らな舌



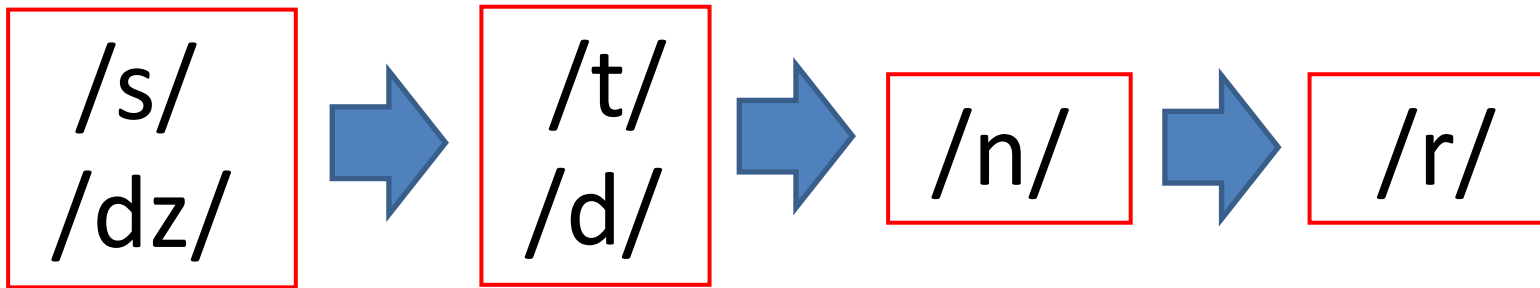
口の構えや舌先の動かし方を
具体的に教示

【構音位置づけ法】

構音位置を前(本来の場所)に移動

(3) 音作りのステップ

指導の順序(基本のセオリー)



Q なぜ/s/から進めるとよいの？

A 舌を動かすと力が入りやすい。
前の舌の状態に戻らないように、
呼気を出すだけで作れる/s/から
とりくむ。



音作りのステップ～単音節 /s/

- ① 脱力した舌を下口唇に乗せる程度まで出させる。
- ② 舌と上の歯の間を狭める。
- ③ 口形を変えずに
「冷たい風を歯と舌の間からそっと出す。」と教示。
- ④ /θ:/ (歯間音) の状態で、摩擦音が作れればOK。

こんな時は注意！

呼気が出ない
またはあたたかい

音を強く出そうとする

口唇で舌を挟んでしまう

初めは「フー」
に近くてもよい。

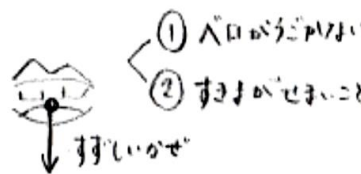


奥舌がもりあがっていない、
舌や口唇に力が入っていない状態で
摩擦音が作れていること

音作りのステップ～単音節 /su/

⑤ /θ:/ (歯間音) に後続母音「う (/u/)」をつける

③ 上の歯と舌の間をせまくして、
すきまからすずしいかぜをだす。



すずしいかぜのあとにつづけて「う」をいう。

θ + う-

HH H

θう-

HH

じつは

ス

母音をつけても舌は出したままで、動かさない。

今までの「す」とはべつものであると子どもに認識させる。

表記を工夫

れんしゅう①

すずしいかぜのあとにつづけて「う」をいう。
θう-
(かぜをだす)

3回いおう

音作りのステップ～単音節 /t/

- ① 脱力した舌を下口唇に乗せる程度まで出させる。
- ② 舌を軽く前歯で挟む。
- ③ 口を開けながら、軽く呼気を出すように破裂させる。
- ④ 舌を動かさずに口を開ける(下顎を動かす)ようにして/t:/ (破裂音)が出ればOK。

こんな時は注意！

舌先を動かすと同時に
舌背に力が入る

舌を口腔内
におさめようとして
力が入る

初めはそっと
呼気を出す。



舌を極力動かさず、脱力した状態を保ち、
下顎の動きで口の開閉動作を行わせる。

音作りのステップ～単音節 /ta/

⑤ /t:/ (破裂音) に後続母音「あ (/a/)」をつける

(1) ポケーのベロを
下くちびるの上に乗せる

(2) ベロを前歯で軽くはさむ

(3) 「あー」と言いながら
口をあける。

じつは

タ

母音をつけても
舌は出したままで、
動かさない。

今までの「た」とは
べつものであると
子どもに認識させる。

音作りのステップ /d/

/t/ (清音) と /d/ (濁音) の違い……。

無声音 か **有声音** か。

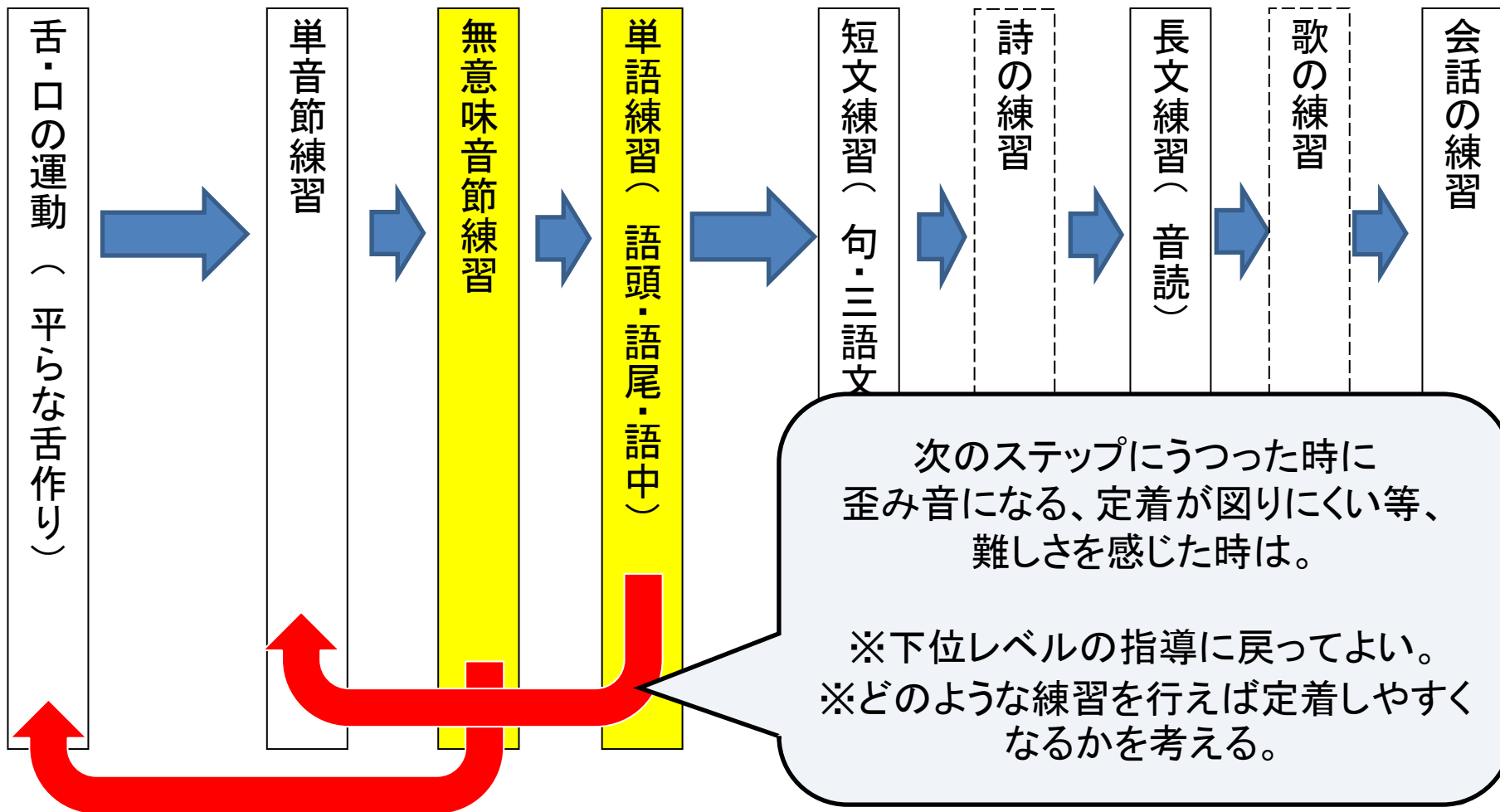
音の作り方、舌や口の動きは同じ。

ささやき声のところを喉を震わせて音を出す。

/t/ の練習時に行った舌の状態、口の動きを利用して正しい音を聴かせて模倣させるとよい。

【聴覚刺激法】

指導順序



系統的構音訓練 ～ 単語練習

⑤知っている言葉を使用したほうがよい。

②～③舌の形、動きをスムーズに使える＝構音操作の力をつける。

初めは
舌の状態を
たしかめ
ゆっくりと

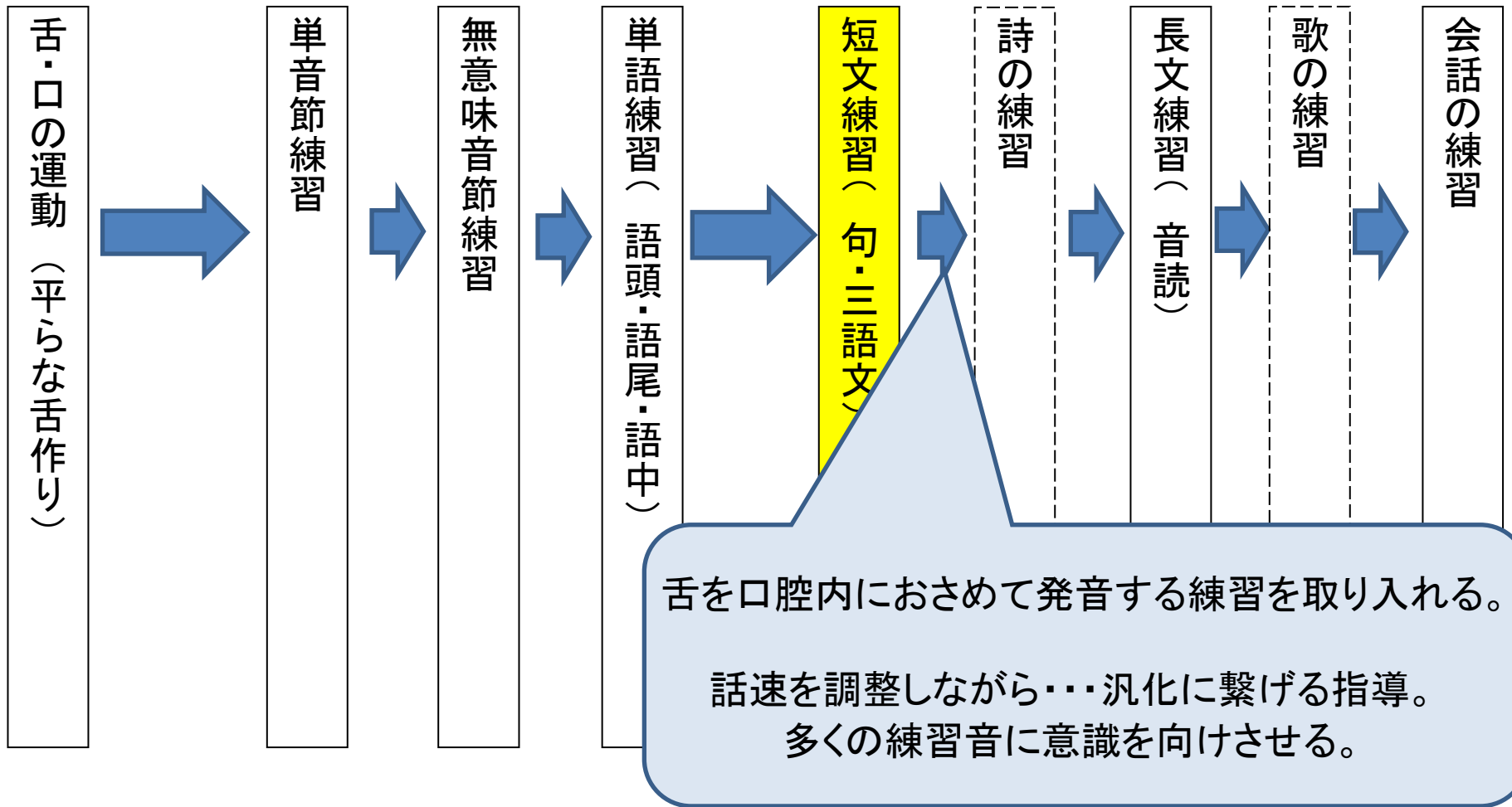
スムーズに
言えるよう
になったら

	語頭単語	語尾単語	語中単語
初めは 舌の状態を たしかめ ゆっくりと	すいか すずめ	バス ようす	ますく むすこ
スムーズに 言えるよう になったら	すいとう	クリスマス	おむすび

文字数を増やしたり、練習音が複数含まれている単語で定着を図る。

練習音にチェックをつける、練習音を意識させ、児童自身に気づきを促す。＝般化につなげる

指導順序



系統的構音訓練 ～短文練習

- ① 少しずつ舌を口腔内におさめる。
- ② 練習音を意識できるような工夫を。
- ③ 徐々に話速を上げていく。

練習した単語を
使用するのもよい。

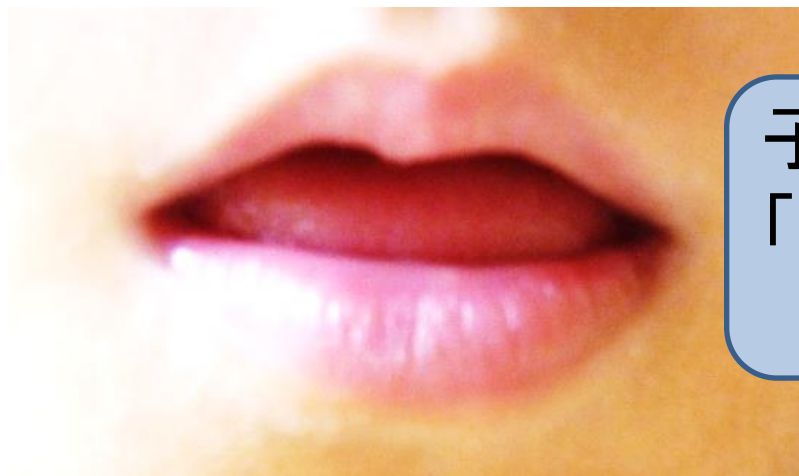
練習音への意識を
もたせるため
チェックをつける。

初めは文節ごとに
区切って丁寧に。

①口腔内に舌をおさめる指導

○「舌を引っ込める」ではなく

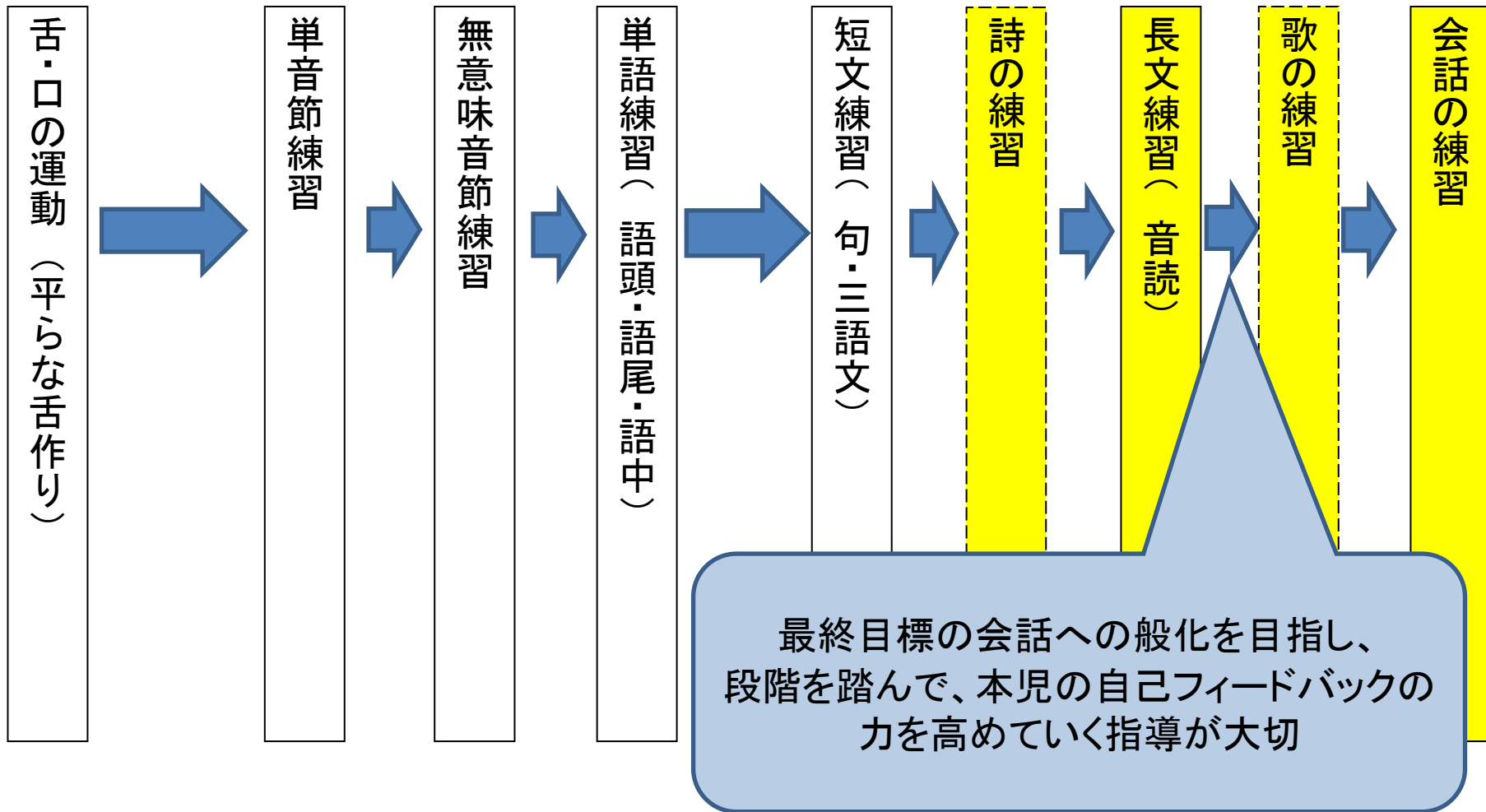
「舌を下の歯列に合わせる」



子どもへの教示は
「ポケーの舌を
下の歯の位置まで出す。」

話速をあげていくと
自然と舌がおさまる可能性も

指導順序



般化に向けて

○スモールステップを細かく設定。

※詩、歌、時間を決めた会話練習など

○舌をおさめた状態で、平らな舌を意識。自己フィードバックさせる。

※舌の正しい形、耳で聞いて気付くなど

○自然な速さで言う練習。

※単語を速く読む、復唱から自発へ。

○音に気を付ける時間を設定。

※スピーチタイム、誤ったら会話途中でも指摘。

○好きな話題を用いる。

※サッカー選手やチームの名前、キャラクター図鑑など。

○徐々に家庭や在籍学校でも練習した音で話すように促す。

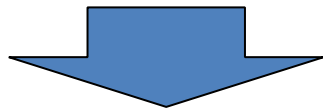
般化にむけて

それでも、100パーセント改善は難しい。

なぜかというと…

- 児童の発達段階(知的な遅れ、発達の偏り)
- 保護者のニーズ(気付きが弱い、困っていない)
- 改善までの時間がかかる。

通級制度(学校の授業を抜けてくること)へのリスク。



最終目標をどう決めるか。

- ★歪みが弱くなったら…
- ★音読練習で気を付けられるようになったら…
- ★児童が舌や音に意識を向けて、
自信をもって話せるようになったら…

参考文献

「構音訓練のためのドリルブック」

編著：岡崎恵子 船山美奈子（協同医書出版）

「ことばをはぐくむ」 著：中川信子（ぶどう社）

「構音障害の指導技法」 著：湧井豊（学苑社）

「構音障害の臨床」 著：阿部雅子（金原出版）

「きこえとことば 研修テキスト ー第2版ー」 P95～113